

しりこのまなざし

くソネット、クリスマスローズ、
エーデルワイスく

目次

序文にかえて	3
ソネット	4
クリスマスローズと青春の光	78
永遠なる光とエーデルワイス	142
あとがきにかえて	186

序文にかえて

ようこそ、いらっしやいました。

しばらくのあいだ、僕の綴った作品たちに、お付き合い下さい。

この本に手を差し伸べていただけて、とてもうれしいです。

純真なる想いをこめて、ありがとうございます。

闘病生活のなかで生まれた物語に、そっと寄り添っていただければ光栄です。
読み終えたあと、皆様の「心」に、優しい風が吹いていますように……。

しりこ

ソ
ネ
ツ
ト



2014年出版（しりこ当時42才）

第一章（ソネット）

シゲルは、自滅してゆくかのように、時を過ごした。

狂った世界の中にいた。

大量の抗鬱剤と精神安定剤をジンジャーエールで飲みほし、窓越しに朝焼けのアンニュイな空をぼんやりと眺めては、大きな溜息ためいきをつく。

激しい頭痛を紛まぎらわす為、部屋には、ビートルズの『ヘルター・スケルター』が繰り返し流れていた。

十七年前に、ベーチェット病という難病……いわゆる不治の病の宣告を受けた。

ベーチェット病には、さまざまな症状があるが、シゲルの場合、失明する可能性
がある。

毎夜、眠りに就く時、シゲルは、不安でたまらない。

……明日の朝、失明していたら……。

そして、目が覚めた時、天井が見えると、シゲルは、胸をなでおろす。

今朝もまた、ちゃんと目が見えていた。

シゲルは、心の底から安心する。

健全者にとっては、当然の事であるが、シゲルにとっては、それだけで特別な事である。

失明に対する不安は、シゲルを心身共に苦しめる。

やがて、不眠症に陥り、心療内科へ通院するようになった。

精神科医は、シゲルに対し、不安神経症であると診断した。

二〇〇九年の夏、シゲルの身体に異変が生じた。

大病院でエックス線検査を受けたところ、インピンジメント症候群しょうこうぐんという骨の病気が判明し、手術が必要となった。

難病のベーチェット病、インピンジメント症候群など、次々と告げられる病名に、シゲルの精神状態は、限界であった。

……死にたい。いつそのこと、死んでしまいたい……。

ぐったり疲れ果てた身体と心。

シゲルは、人生に終止符を打とうと決めた。

すると、その時である。

ひとすじの光が、シゲルを照らした。

それは……。